

川上村

西部産業・観光拠点地区まちづくり基本構想 ～にぎわいと仕事の郷(まち)づくり～

<目次>

| | |
|---------------------|-------|
| 1. 川上村の概況 | ... 2 |
| 2. 川上村の郷(まち)づくりの考え方 | ...10 |
| 3. 西部地区の概況 | ...12 |
| 4. 地区の課題設定 | ...18 |
| 5. 郷(まち)づくりのコンセプト | ...19 |
| 6. 郷(まち)づくり基本方針 | ...20 |
| 7. 基本となる取組み | ...21 |
| 8. 基本構想図 | ...22 |

(1)人口

①人口推移と今後の予測

- 対応すべき問題の多い川上村において、特に重点的に取組むべきこととして人口対策があげられる。
- 1955(昭和30)年の8,132人をピークとする人口は、その後一貫して減少しており、1985(昭和60)年には高齢者人口(65歳以上)数が年少人口(0~14歳)数を追い抜いた。
- 2015(平成27)年国勢調査による人口は総数が1,313人、年少人口が59人(4.5%)、生産年齢人口が483人(36.8%)、高齢者人口が771人(58.7%)となっている。
- 今後の人口については、国立社会保障・人口問題研究所による推計、日本創成会議による推計のいずれも人口減少が予測されるところであり、日本創成会議の推計によれば、人口の再生産を中心的に担う20~39歳の女性人口が減少し続けることで、今後も人口移動が収束しない場合には、消滅の可能性もあり得ることが指摘されている。

【川上村の総人口、年齢3区分別人口の推移(国勢調査)】



【平成以降の人口推移と予測】

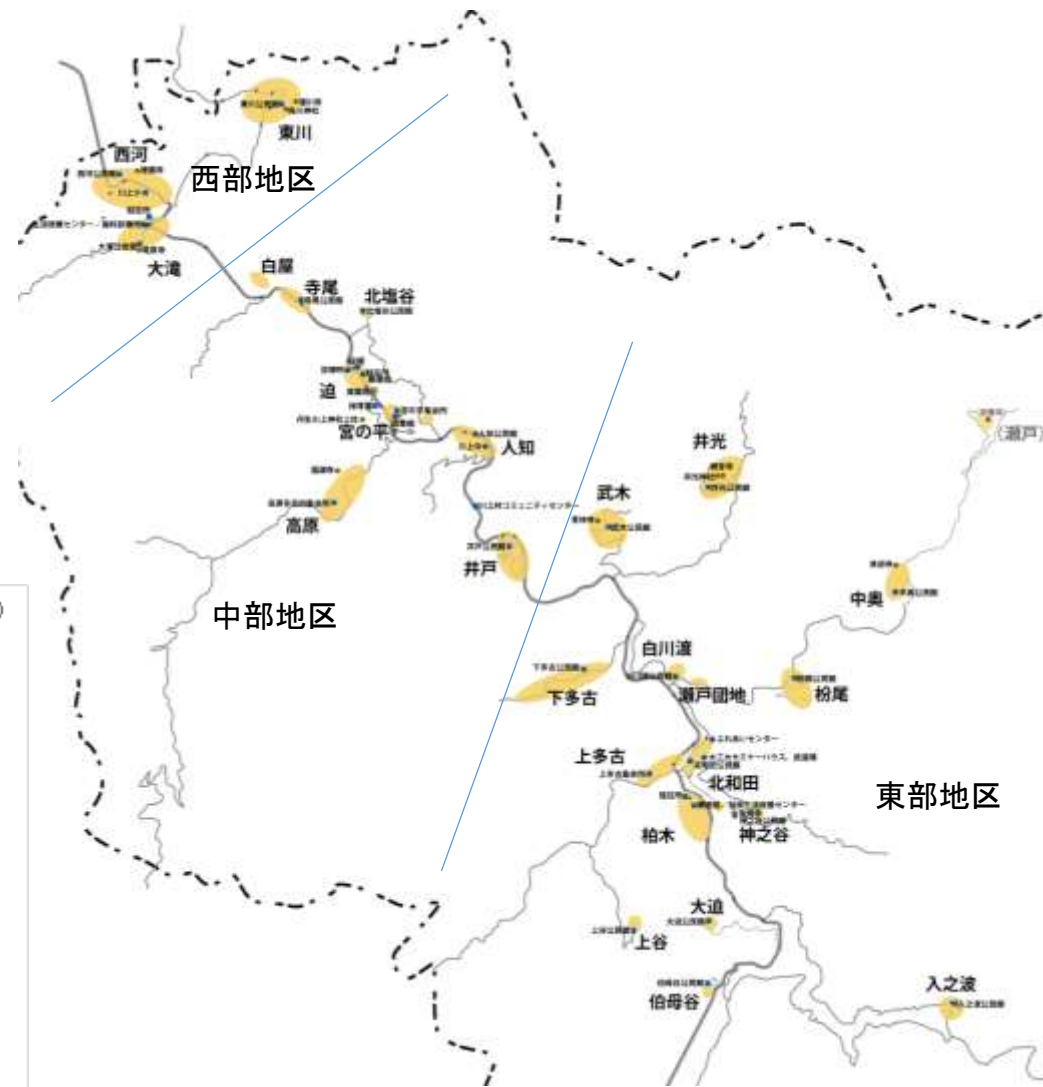


出所: 第5次川上村総合計画

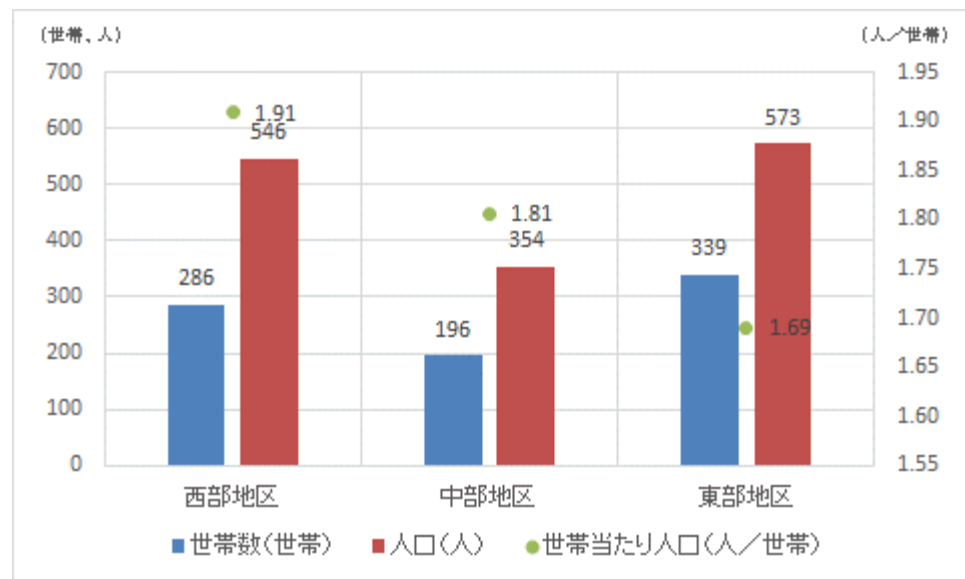
②地区別の人口

- 村内には26大字があり、それぞれに集落が形成されている。いずれの集落も村全体と同様、少子化・高齢化・人口減少が問題となっており、地域コミュニティの維持・強化を図ることが求められている。
- 特に東部地区には人口20人を下回る集落が複数存在するなど、あまりにも小規模でコミュニティ維持が困難な集落や、支線沿いに形成された交通等の不便な集落も多い。

【大字(集落)の分布と地区区分】



【住民基本台帳人口(平成29年10月31日現在)】



③高齢者の暮らし

- 65歳以上の全住民を対象として約8割の回答を得た「高齢者暮らしアンケート調査」によると、東部地区では、一人暮らしの高齢者の占める割合の高い集落が多い。

- また、ふだんの外出頻度が週1日以下だという高齢者は、西部および東部地区の大半の集落で4割以上となっている。
- 介助・介護が必要になるような将来になった場合、その生活は村外になると考えている高齢者は、西部地区では各集落4割未満である一方、東部地区では7集落が4割以上である。

【一人暮らし】

【外出頻度が「週1日以下」】

【「将来は村外で」と考えている】

西部
地区

中部
地区

東部
地区



(2)環境

①自然環境

- 川上村は、台高山脈から流れる吉野川・紀の川が村の中央部を貫流してV字谷を形成しており、大半が急峻な山岳地帯となっている。このため平坦なまとまった土地が少なく、宅地などに適した希少な敷地は、有効活用が求められる。
- また、大迫ダム、大滝ダムの2つのダムが建設されており、下流域にかけがえのない水を供給する水源地として重要な役割を担っている。

【自然環境】



出所:第5次川上村総合計画

②林業・木材産業

- 村を取り囲む山々は杉や檜の育成に適しており、吉野杉の主産地を形成している。川上村をはじめとする吉野地方では、500年程前より植林が始められ、木材の需要が飛躍的に増加した江戸時代に、森林資源の維持を目的とした造林が始まっている。
- 大滝集落の山林地主の家に生まれた土倉庄三郎は、天保11(1840)年に16歳で家督を継いで以降、林業の発展に力を入れ、吉野林業の中興の祖と呼ばれている。優れた多くの材木を生産できるよう独自の造林法「土倉式造林法」を生み出し、全国各地でその技術を広めて、成果をあげた郷土の偉人である。
- 現在は全国的にも低迷する林業の再興に向けて、村内4つの林業関係団体が連携して「吉野かわかみ社中」を設立し、川上産吉野材の生産から販売までの供給一貫体制の確立を推進している。

【林業・木材産業ゾーンと拠点、村有林】



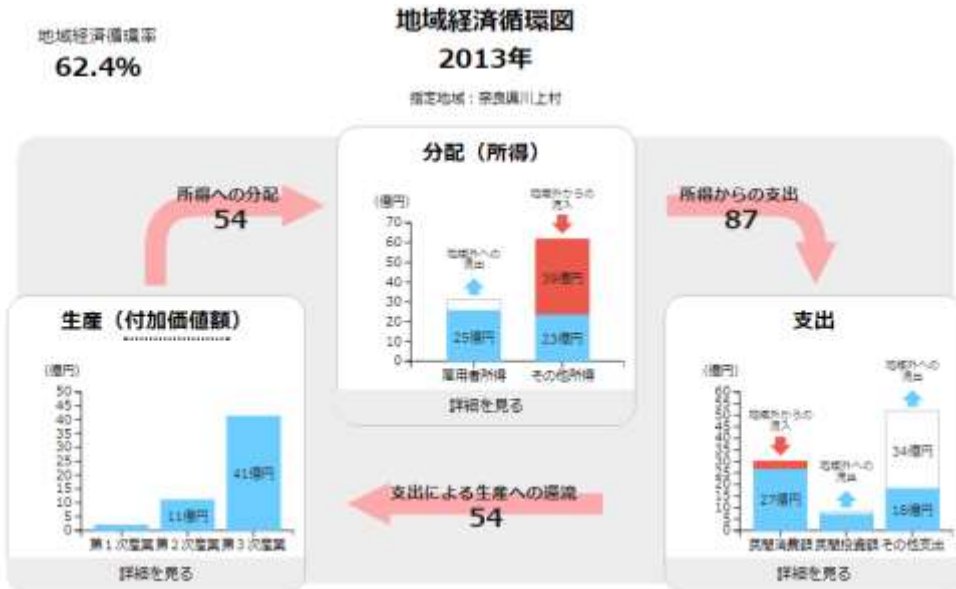
出所:第5次川上村総合計画(一部加筆)

(3) 経済・産業

① 地域経済循環

- 地域経済分析システム (RESAS) による2013年の川上村の地域経済循環率 (生産 (付加価値額) ÷ 分配 (所得)) は62.4%であり、地域外から流入する「その他所得」(財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等)への依存が強い。
- 地域内の住民・企業等に分配された所得が使われる「支出」の面では、企業の設備投資等の「民間投資額」、政府支出、地域内産業の移輸出入収支額等の「その他支出」において域外流出が見られる。
- 「生産」(付加価値額)の面では、第3次産業が他と比べて大きい。

【2013年 地域経済循環図】

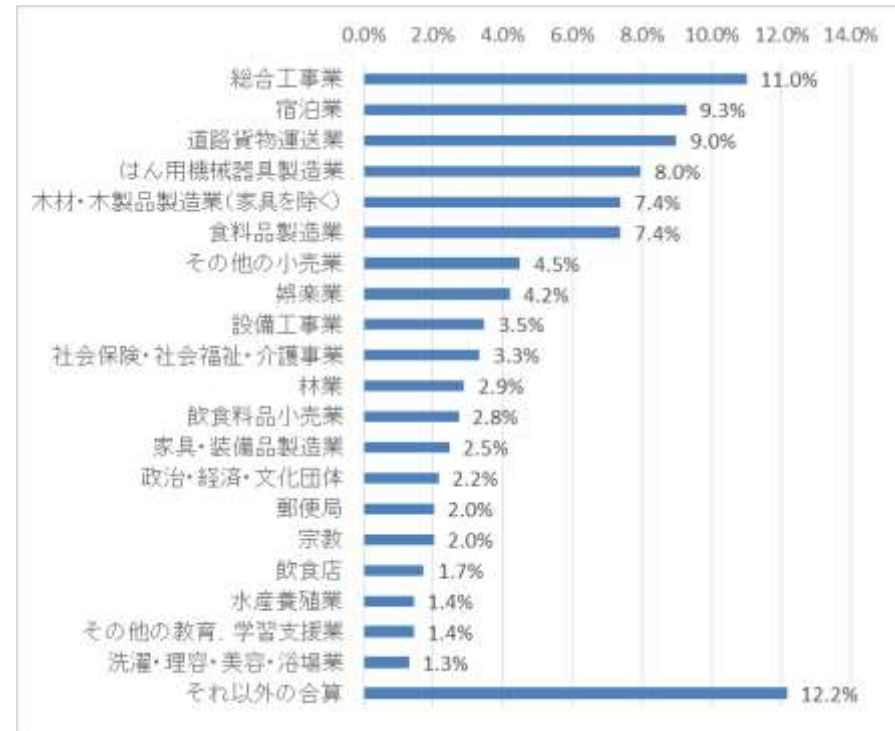


出所: 地域経済分析システム (RESAS)

② 産業構造

- 経済センサスによる2014年従業者数 (事業所単位) は690人で、製造業 (はん用機械器具、木材・木製品、食料品等)、建設業 (総合工事、設備工事等)、宿泊業、道路貨物運送業などが多い。

【2014年 従業者数 (事業所単位) 中分類】



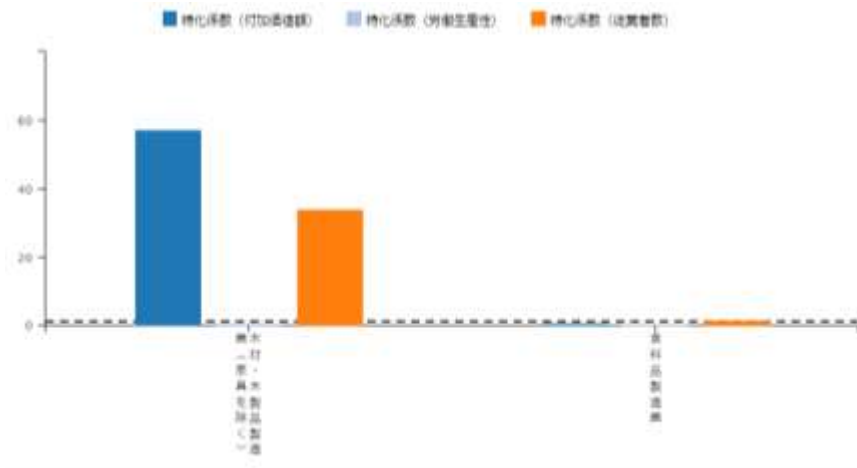
出所: 地域経済分析システム (RESAS) によるデータを加工

③稼ぐ力分析

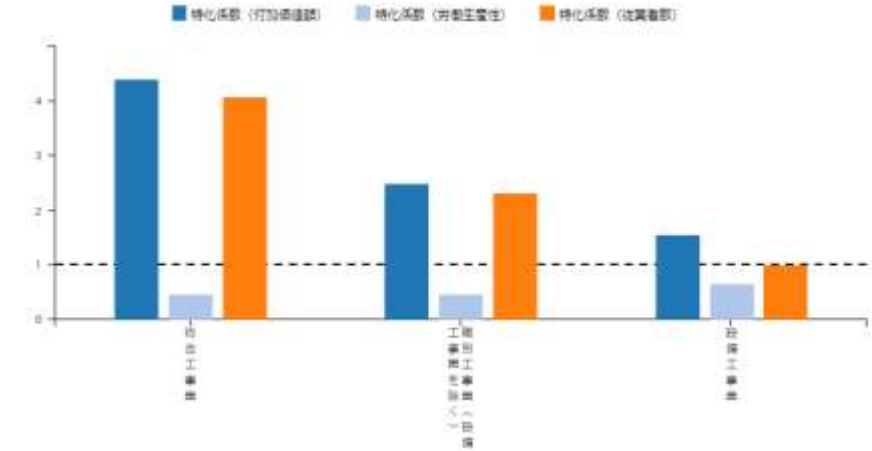
- 主な産業について、特化係数(全国もしくは全国の当該産業を1とした場合の比較)によって特徴を見ると、特に林業の付加価値額は圧倒的である。ただし、労働生産性は全国林業のほぼ平均並みとなっている。

- 製造業、建設業、宿泊業はいずれも付加価値額・従業者数ともに特化係数1を上回る数値であるが、労働生産性は低く、効率的な生産が課題となっている。

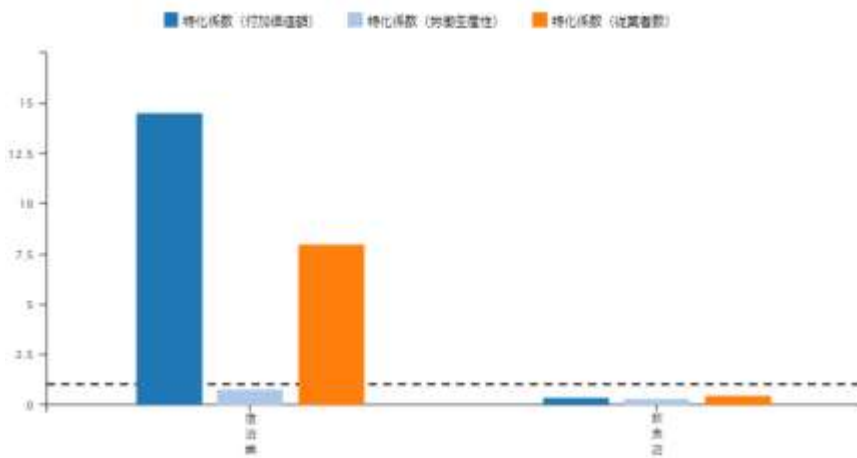
【2012年 製造業の特化係数】



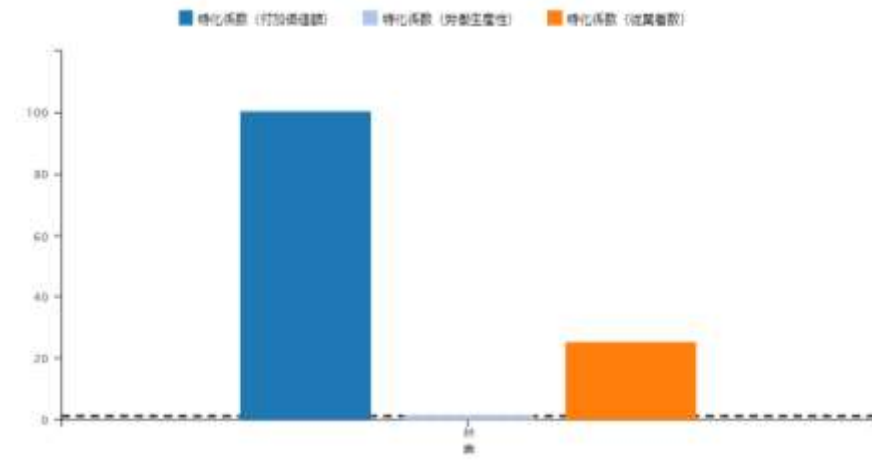
【2012年 建設業の特化係数】



【2012年 宿泊業、飲食サービス業の特化係数】



【2012年 林業の特化係数】



出所: 地域経済分析システム (RESAS) ※全グラフ

④観光

- 村の自然環境や温泉等を活かした観光に取り組んでいる。日帰り観光客数は合算で22万5千人(平成28年度)で、このほかにも蜻蛉の滝(約10万人)やその他の川遊び(約1.5万人)等で訪れる観光客がいるものと想定される。
- 村内の宿泊施設での宿泊総数は平成28年度が約1.5万人で、増加傾向にある。

- 川上村など8町村(吉野町、下市町、黒滝村、天川村、下北山村、上北山村、東吉野村)は、吉野林業500年の造林と文化が高く評価され、「美林連なる造林発祥の地“吉野”」として文化庁に「日本遺産吉野」として認定されている。
- また、三重県(大台町)と奈良県(上北山村・川上村・五條市・下北山村・天川村・十津川村)をまたぐ、1市1町5村でユネスコエコパーク「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」が構成されている。生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的として、国内では9件が登録されているうちの一つであり、様々な森を守る活動や環境教育に取り組み、自然と伴走する形での持続可能な発展を目指す“健やかな産業”が営まれている。

【観光客数の推移】



出所:川上村資料

【観光地の分類内訳】

| 分類 | 施設等 |
|-------|---|
| 宿泊 | ホテル杉の湯(宿泊)、山鳩湯(宿泊)、旅館朝日館、民宿中奥川、民宿橋戸、民宿紺ちゃん、民宿ログキャビン高原、民宿のどか、民宿かわかみ、民宿なかひら、民宿中西 |
| 温泉施設 | ホテル杉の湯(入浴日帰り)、ホテル杉の湯(食事日帰り)、山鳩湯(入浴日帰り) |
| アウトドア | 白川渡オートキャンプ場、中井溪谷自然塾、木地ヶ森溪谷、井氷鹿の里もりもり館、大迫ダムつり公園、川上村漁業組合 |
| その他 | 木工の里、あきつの小野スポーツ公園、もくもく館、てくてく館、不動窟鍾乳洞、学べる建設ステーション／学べる防災ステーション、森と水の源流館、匠の聚、道の駅、やまいき商店 |

2. 川上村の郷(まち)づくりの考え方

(1) 2つのネットワーク圏の形成

- 川上村は、役場等の公共施設や生活・観光等に関連する主要機能が集積する『中部地区』を中心に、より山間に位置し、地域コミュニティの維持・強化が重要な課題となっている『東部地区』と、村内では最も都市部に近く、近隣市町村とのアクセス優位な立地から人や経済の流動性が高い『西部地区』の3地区から構成される。
- 本村の郷(まち)づくりは、平成6年度から「水源地の村づくり」をコンセプトとして樹・水・人の共生する環境をめざした取組みをスタートさせ、平成27年度からの10年間を計画期間とする第5次総合計画において「都市にはない豊かな暮らしの実現」を掲げて、より具体的なプロジェクトが「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成27年1月)に基づいて動き出している。
- 特に高齢化や過疎化の深刻な集落が多い『東部地区』では、「人・「仕事」・「子育て・教育」・「暮らし」の4分野を横断する「東部地区暮らしがつづく集落づくりプロジェクト」として、事業主体となる「一般社団法人かわかみらいふ」が設立され、「暮らしを守る」(買い物支援等)、「健康を守る」(巡回診療、健康教室、食生活改善等)、「つながりをつくる」(カフェ、会議・サークル、相互見守り等)、「仕事をつくる」(各種サービス等の事業化等)といった取組みを展開し、「小さな拠点」の設置された北和田集落を中心とする東部地区の集落ネットワーク圏の形成を目指している。
- 『西部地区』は、基幹産業である林業の振興を目指して組成された「一般社団法人吉野かわかみ社中」が中心となり、木材生産(川上)をはじめ、製材・加工・流通(川中)、販売(川下)のまでの一貫した仕組みづくりに取り組んでいる。村外と交流しやすいこの地区は、村内でも居住者の多い集落で構成されており、木材加工をはじめとする立地事業所、アーティストや職人等の集積、公有資産や観光資源の有効活用を図ることなどで、村域の玄関口としてのポテンシャルを高め、一体的な西部地区の集落ネットワーク圏を形成することが期待されている。
- 本村の郷(まち)づくりは、役場の立地する迫集落を拠点とする「中部地区」が全村をカバーするネットワークの要として機能すると共に、これを補完する形で「東部地区」、「西部地区」の2つの集落ネットワーク圏の形成を図り、各地区の特色を活かした郷(まち)づくりの推進と相互の連携によって、『都市にはない豊かな暮らし』を実現させる。



(2) 上位・関連計画との関係性

第5次川上村総合計画 2015年度～2024年度

川上村まち・ひと・しごと創生総合戦略
2015年度～2019年度

奈良県と川上村との
郷(まち)づくりに関する
包括協定 2017.2.16

「都市にはない豊かな暮らしの実現」

環境プラン

- ◆ きれいな水環境づくり
- ◆ 環境づくり

コミュニティプラン

- ◆ 地区カルテづくり
- ◆ 暮らしの拠点づくり
- ◆ ふる里の味づくり

子育てプラン

- ◆ 教育カリキュラムづくり
- ◆ 地域ぐるみのサポートづくり
- ◆ 住まいづくり

福祉プラン

- ◆ 福祉のサブ拠点づくり
- ◆ 地域ケア会議づくり

産業プラン

- ◆ 林業・木材業再生
- ◆ 川上産吉野材の循環づくり
- ◆ 元気な地域産業づくり

観光プラン

- ◆ 健康と旨処巡り
- ◆ 水源地街道寄り道処案内所づくり

- ① 村民が住み続けられる環境づくりを推進し、転居しない、村に住み続けられる村づくりを進めるとともに、
- ② 「村外に転居した子ども・孫のUターン」および「都市部からのIターン」を毎年3世帯確保し、
- ③ 世帯人員4名を実現できる子育て環境づくりについて官民一体となって取り組む

9. 健康で元気な暮らしとコミュニティづくりプロジェクト

2. 東部地区暮らしがつつく集落づくりプロジェクト

8. キラリと光る子育て・教育プランと地域ぐるみのサポートづくりプロジェクト

1. 住宅総合プロジェクト

4. 川上ing(かわかみんぐ)作戦

5. 吉野かわかみ社中

6. 源流アカデミープロジェクト

7. しごと応援プロジェクト

3. オール川上観光交流推進プロジェクト

東部暮らしの拠点周辺地区
✓ 暮らしつつける郷(まち)づくり

西部産業・観光拠点周辺地区
✓ にぎわいと仕事の郷(まち)づくり

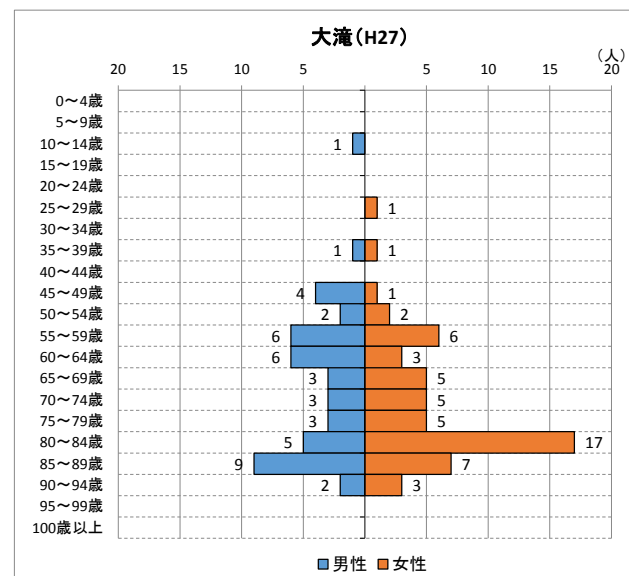
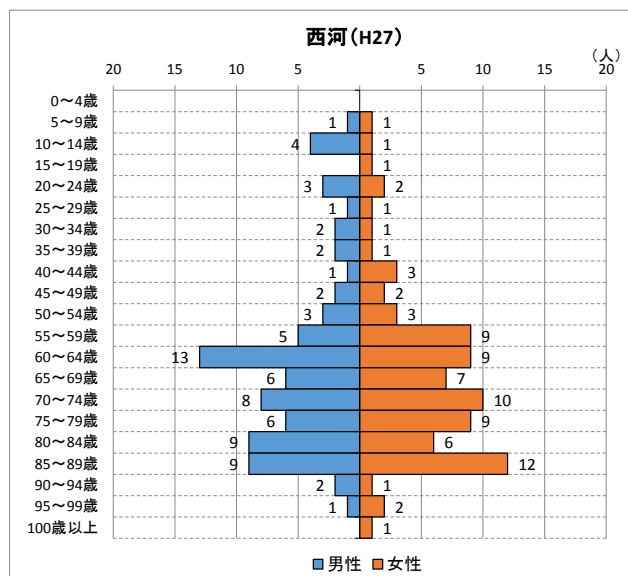
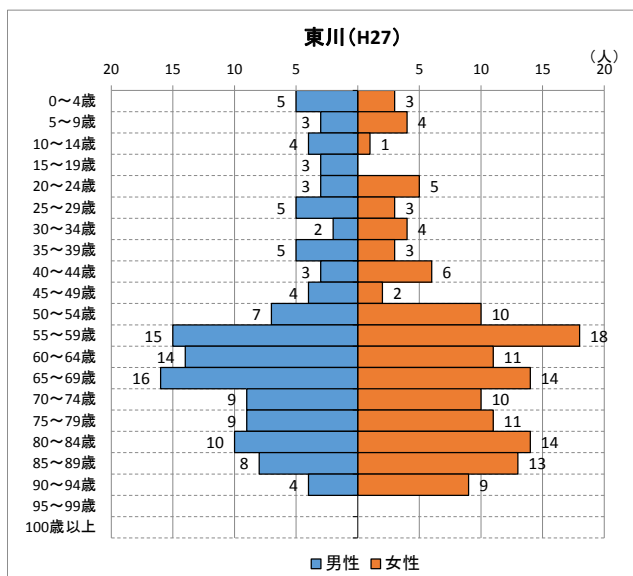
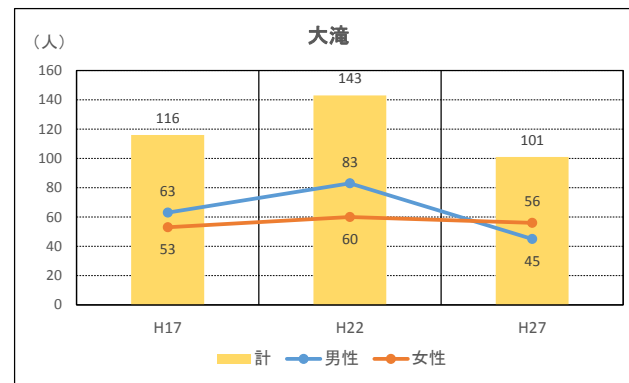
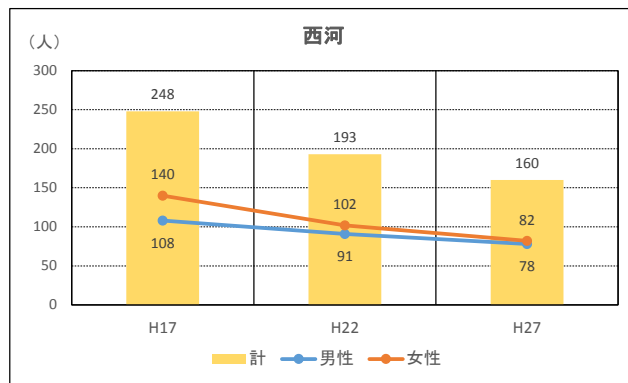
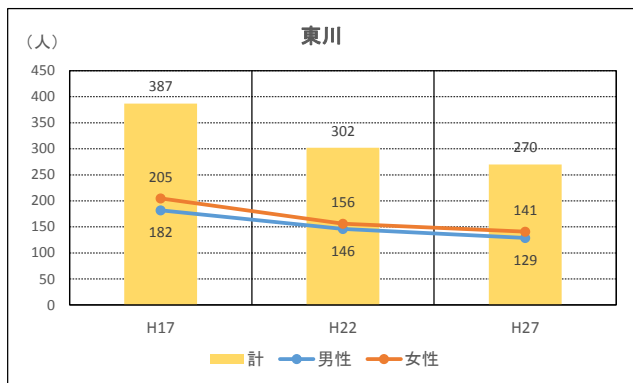
3. 西部地区の概況

(1) 居住人口から見た集落の姿

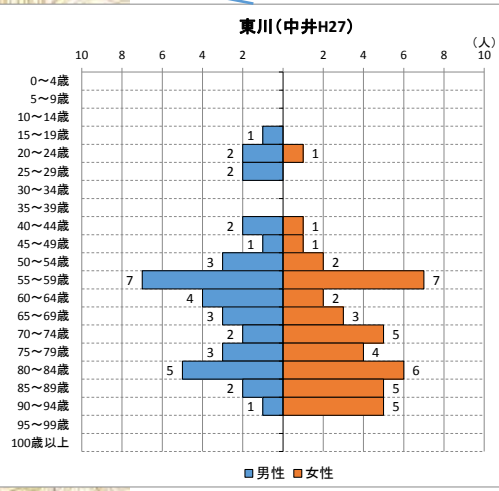
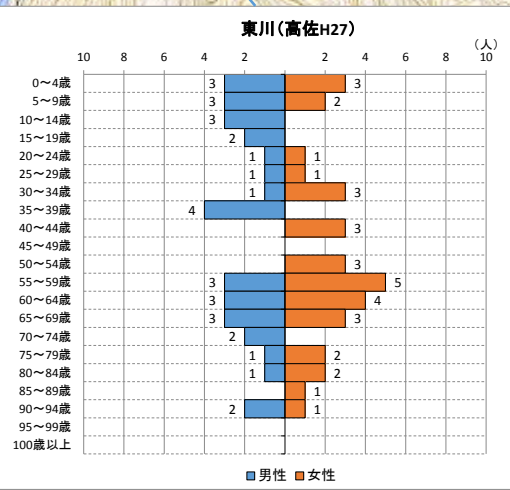
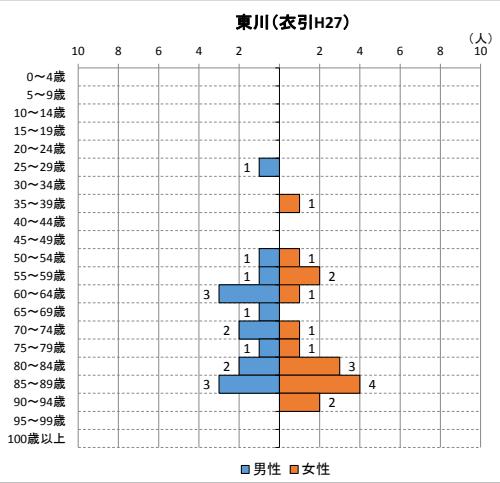
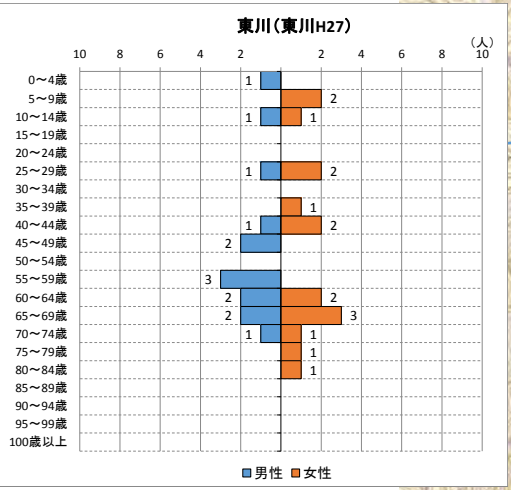
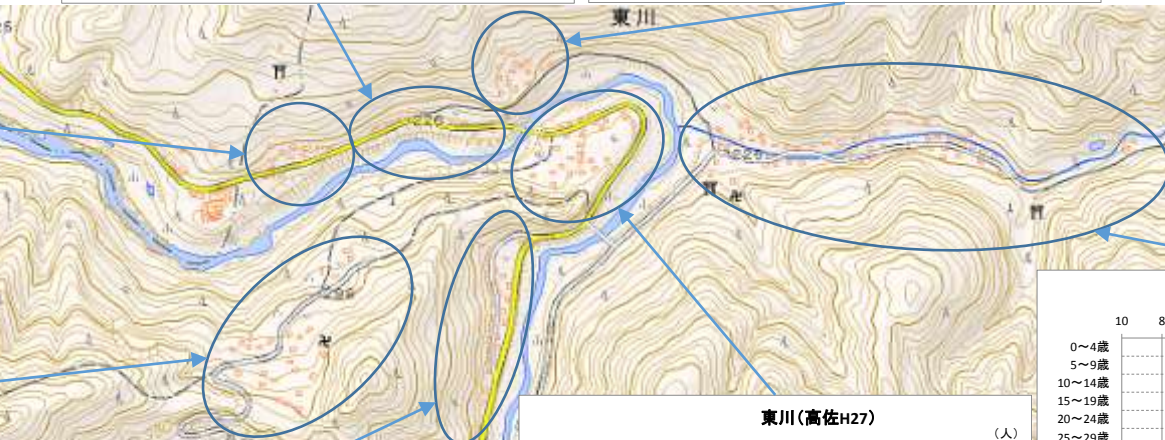
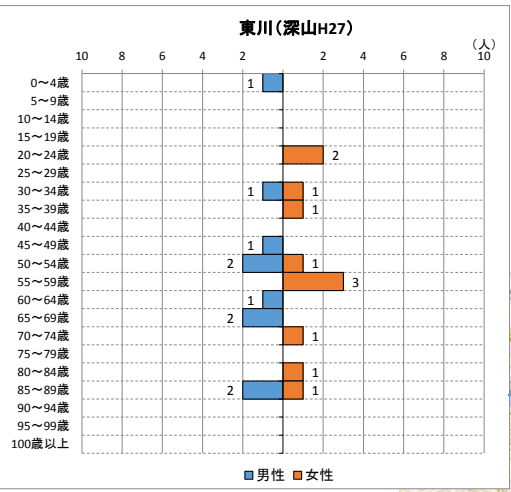
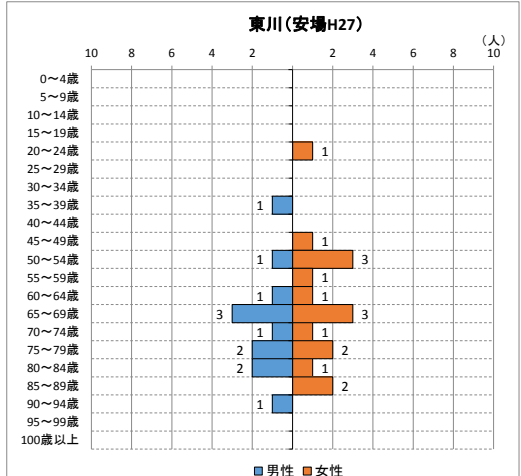
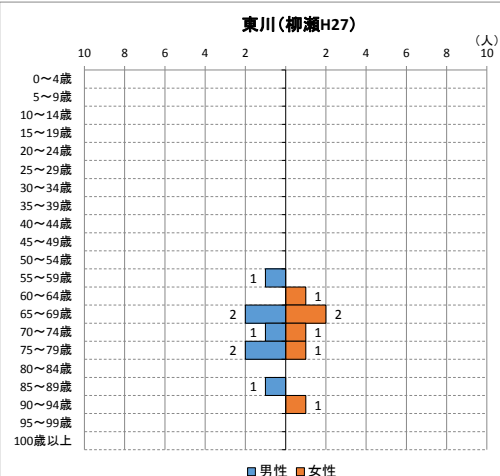
- 2015(平成27)年の国勢調査人口1,313人のうち、およそ40%にあたる531人が西部地区に居住している(東川:20.6%、西河:12.2%、大滝:7.7%)。
- 3つの集落(大字)ではいずれも平成27年には人口減に転じている。
- 県道262号に沿って居住地を形成する**東川**は、比較的年少人口も多い。また、55~69歳程度の層がボリュームゾーンとなっている。

- 東川地内はさらに7つの小集落に分かれ、それぞれ人口構成が大きく異なることから、近隣コミュニティの力に違いが生じている。
- 村外とのアクセスの優れた**西河**は、川上小学校が立地しているが、10歳未満の子どもが少ない。ボリュームゾーンは60歳以上にあり、急激な超高齢化や社会減なども懸念される。
- **大滝**には25歳未満の若い世代は1人のみであり、80歳以上の高齢者が多く、人口構成のバランスを欠いた状況にある。

【各集落の国勢調査人口(平成27年)】



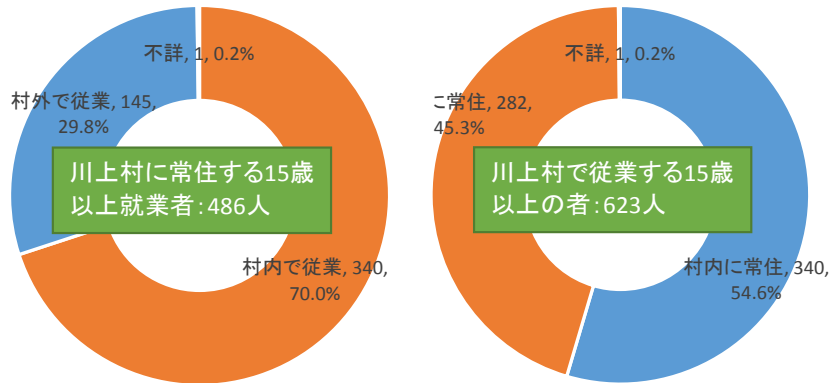
【東川地内の小集落の年齢構成(国勢調査)】



(2) 仕事の間としての西部地区

- 本村に常住する就業者(486人)のうち、村内で従業する者は70%(340人)であり、本村で従業する者(623人)のうち、約45%(282人)が村外から通勤してきている。
- 村外の常住者で本村において従業する者は、大淀町、檀原市、吉野町の3市町で約57%(161人)となっている。
- 西部地区に常住する就業者は209人で全体の43%を占める。この地区では、自宅で従業する割合は村全体より低く、村外で従業する者の割合が村全体より高めとなっている。
- 当地区には、林業・木材業と関連する事業所や、特産品などの食品を扱う事業所が多く立地している。しかしながら、産業活動を支える道路基盤は、大型車両(物流トラックや観光バス等)の通行が困難な箇所があるなど、脆弱さも見られる。

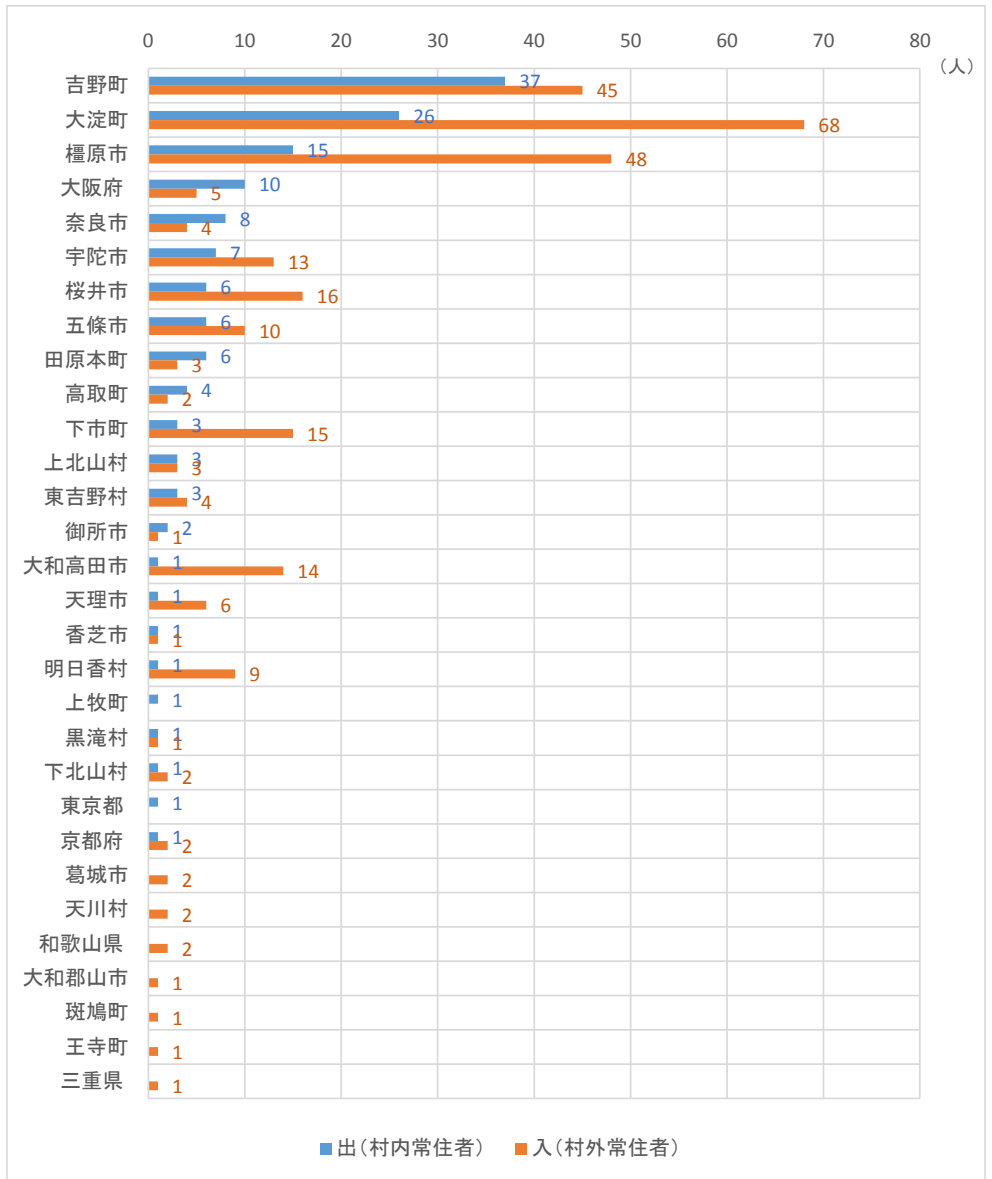
【従業地・常住地の村内外(平成27年国勢調査)】



【西部地区常住者の従業地(平成27年国勢調査)】

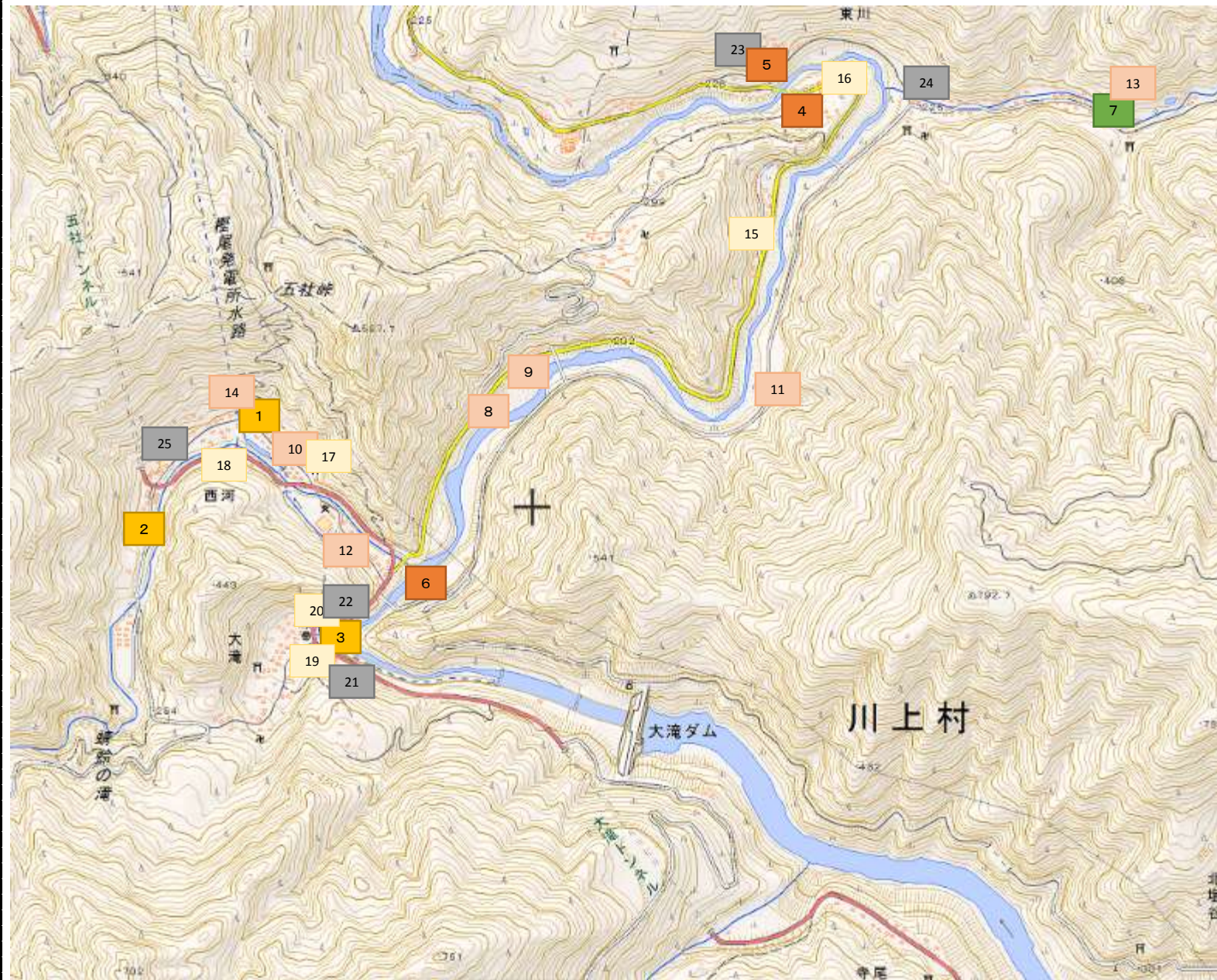
| | 常住地による15歳以上就業者数 | | 自宅で従業する者 | | 自宅外の村内で従業する者 | | 他市区町村で従業する者 | |
|------|-----------------|--------|----------|--------|--------------|--------|-------------|--------|
| 川上村 | 486 | 100.0% | 112 | 100.0% | 228 | 100.0% | 145 | 100.0% |
| | | | | | | | | |
| 西部地区 | 209 | 43.0% | 38 | 33.9% | 101 | 44.3% | 70 | 48.3% |
| | | | | | | | | |
| | | 100.0% | | 18.2% | | 48.3% | | 33.5% |

【村外の従業市町村(出)と村外の常住市町村(入)(平成27年国勢調査)】



【村内の主な事業所と西部地区への立地状況】

| 事業所 | 大字 | 西部地区 (図番号) |
|-------------------------|-----|---------------|
| 建設・工事業 | | |
| 山峰建設株式会社 | 寺尾 | |
| 株式会社中平建設 | 北和田 | |
| 株式会社城内組 | 西河 | 1 |
| 株式会社成建設 | 西河 | 2 |
| 幸成建設株式会社 | 下多古 | |
| 株式会社玉井組 | 下多古 | |
| 吾妻工務店 | 上多古 | |
| 株式会社大谷組 | 柏木 | |
| 小林設備 | 大滝 | 3 |
| すぎた測量設計事務所 | 北和田 | |
| 池田鉄建 | 高原 | |
| 建設資材販売 | | |
| 有限会社ヨシミ | 東川 | 4 |
| 上平材木店 | 東川 | 5 |
| 前田林業 | 下多古 | |
| 森口材木店 | 上多古 | |
| 春亮木材株式会社 | 中奥 | |
| セドケンジ | 中奥 | |
| 土井材木店 | 大滝 | |
| カクキチ木材(下西林業) | 入之波 | |
| 川上村森林組合林業総合センター | 西河 | 6 |
| 農林水産業 | | |
| 吉野かわかみ社中 | 迫 | |
| 大西林業 | 北塩谷 | |
| 小西林業 | 武木 | |
| 中平林業 | 迫 | |
| 林権草園 | 北和田 | |
| 大辻草園 | 高原 | |
| 川喜田山林事務所 | 柏木 | |
| 丸直 | 中奥 | |
| 北村林業株式会社 養場事業所 | 入之波 | |
| 東川養魚場中居溪谷 | 東川 | 7 |
| 遊魚井水鹿の里、生産組合 | 井光 | |
| 川上村森林組合本所 | 迫 | |
| 木製品 | | |
| 有限会社菊谷木工所 | 東川 | 8 |
| 吉野杉工房 | 東川 | 9 |
| 株式会社岡仁 | 西河 | 10 |
| 川上産吉野材販売促進協同組合(さぶり) | 東川 | 11 |
| 岡本工務店 | 柏木 | |
| マルヤ製箸所 | 上多古 | |
| 工房アップルジャック | 東川 | 13 |
| 株式会社カネマツ | 西河 | 14 |
| 食品 | | |
| 貝谷製麺所、美吉野素麺 | 高原 | |
| 中西佃煮製造販売 | 東川 | 15 |
| 川上村山菜等加工施設 | 高原 | |
| 株式会社ニューダイワ通商 | 高原 | |
| 鮎屋 | 東川 | 16 |
| 柿の葉寿し 橋戸 | 西河 | 17 |
| 徳岡商店 | 西河 | 18 |
| 大滝茶屋 | 大滝 | 19 |
| 松屋食堂 | 大滝 | 20 |
| その他(卸・鉄鋼・化学・印刷等) | | |
| 松本商会 | 大滝 | 21 |
| 松ハタンス、松ハケアサービス | 大滝 | 22 |
| 大本鉄工 | 井戸 | |
| 青柿鉄工所 | 武木 | |
| 上平ポリエチレン工業所 | 東川 | 23 |
| 堀谷機販 | 井戸 | |
| 株式会社東谷製作所 | 東川 | 24 |
| ニジツコ印刷 | 西河 | 25 |



出所: インターネット電話帳および川上村商工会会員より作成

(3) 西部地区への転入者等

- 5年前の常住地との比較(平成27年国勢調査)によると、村内での転居者は村全体で21人で、そのうちの約3割が西部地区の現居住者である。
- 村外からは、県内からの転入者34人のうちの15人(約44%)、他県からの転入者68人のうちの25人(約37%)が西部地区に居住している。
- これらのことから、村内でも比較的交通便利性に優れた立地の西部地区は、暮らし(通勤・通学・買い物・通院等の村外出向)における不便さを感じる村内居住者の村外転出を食い止めたり、村外からの新たな移住者を受け止めたりする素地があるものと考えられる。
- また本村では、移住・定住の促進に向けて、「川上村の職と住」を知ってもらうためのツアー「川上ingツアー」(かわかみんぐツアー)を実施している。平成25・26年度の役場の若手職員等によるワーキング(川上ing作戦)において「住まいと仕事」をセットにした取組みの必要性を共通認識し、村営シェアハウスの建設(人知)などと共に展開してきた。この取組みを通じて22世帯55名の移住が実現している。

【川上ingツアーによる移住促進】

川上村が魅力をあげて、田舎暮らしを応援します
KAWAKAMING TOUR
平成30年3/2・3
先輩移住者との交流会などリアルな声も聞けます
平成25年度から22世帯55名の移住が実現しました

お問い合わせ先：川上村役場 総務課 課長 藤田 誠
〒746-0202 島根県川上町大字川上3-1-1
TEL: 0746-52-0111

【住まいの需給マッチング(住まいるネット)】

川上村 住まいるネット

移住したい人と求めている人をマッチングさせるサービスです。

【「5年前の常住地」から見た転入等の状況(平成27年国勢調査)】

| | 村内他所から転居 | | 村外(県内)から転入 | | 他県から転入 | | 国外から転入 | |
|------|----------|--------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 実数(人) | 構成比(%) | 実数(人) | 構成比(%) | 実数(人) | 構成比(%) | 実数(人) | 構成比(%) |
| 川上村 | 21 | 100.0% | 34 | 100.0% | 68 | 100.0% | 3 | 100.0% |
| 西部地区 | 6 | 28.6% | 15 | 44.1% | 25 | 36.8% | 1 | 33.3% |
| 東川 | 6 | 28.6% | 6 | 17.6% | 20 | 29.4% | | |
| 西河 | | | 6 | 17.6% | 4 | 5.9% | 1 | 33.3% |
| 大滝 | | | 3 | 8.8% | 1 | 1.5% | | |
| 寺尾 | | | | | 4 | 5.9% | | |
| 北塩谷 | | | | | | | | |
| 迫 | | | 4 | 11.8% | 10 | 14.7% | | |
| 高原 | 5 | 23.8% | 2 | 5.9% | | | 1 | 33.3% |
| 人知 | 4 | 19.0% | 2 | 5.9% | 1 | 1.5% | | |
| 白屋 | | | | | | | | |
| 井戸 | | | | | | | | |
| 武木 | 1 | 4.8% | 1 | 2.9% | 3 | 4.4% | | |
| 井光 | | | 2 | 5.9% | 1 | 1.5% | | |
| 下多古 | | | | | | | | |
| 白川渡 | 4 | 19.0% | | | 2 | 2.9% | | |
| 粉尾 | | | | | 3 | 4.4% | | |
| 中奥 | | | | | | | | |
| 瀬戸 | | | | | 5 | 7.4% | | |
| 北和田 | | | 5 | 14.7% | 8 | 11.8% | | |
| 神之谷 | | | | | | | | |
| 上多古 | | | 3 | 8.8% | 4 | 5.9% | | |
| 柏木 | | | | | 2 | 2.9% | | |
| 上谷 | | | | | | | | |
| 大迫 | | | | | | | | |
| 伯母谷 | | | | | | | | |
| 入之波 | 1 | 4.8% | | | | | 1 | 33.3% |

(4) 西部地区の観光・交流ポテンシャル

- 西部地区は、国道169号・五社トンネルを通過して来村する際、あるいは県道262号線によって東吉野村方面から入る際に、玄関口にあたる地区である。
- 西河の五社トンネル出口付近には、地域おこし協力隊によるプロジェクトとして、吉野川流域のものづくりセレクトショップ「**やまいき商店**」が開設され、村産野菜を販売する朝市なども催されている。また、同施設には**かつて村の観光案内所「山幸彦てくてく館」**が設置されていた。
- 同施設の向かい側には、**かつて林業資料館「山幸彦のもくもく館」**があり、吉野の林業を紹介する展示等がなされていたが、平成26年の火災被害の後、閉館し、現在は更地となっている。
- これらの施設は、五社トンネル出口付近で大きなカーブを描く国道からの進入路沿いにあるため、通行の安全性確保や出入りしやすい工夫などが求められる場所であるが、その先にはテニスコート、ゲートボール場、パターゴルフ場等を備えた「**あきつの小野スポーツ公園**」、蜻蛉(トンボ)が第21代雄略天皇を虻(アブ)から救ったという伝説にちなんだ勇壮な「**蜻蛉の滝**」などのスポットもある。
- 大滝の集落は、山林王「**土倉庄三郎翁**」ゆかりの地として、磨崖碑や銅像(生家跡)などが設置されており、現在、村では土倉翁の思想・業績を語り継ぐための野外展示のあり方等を調査・検討している。
- 「**大滝ダム**」付近は、防災と水とダムについて学ぶことのできる「**学べる防災ステーション**」(国土交通省)が設置されているが、そこへのアクセスは大滝トンネルを超えた先からに限定されており、連続的なアーチ橋を模したデザインのダム本体を望むことのできる**ダイナミック広場**や**オオスギ広場**等が十分に活用できていない状況にある。
- 東川の「**匠の聚**」は、芸術家のアトリエ、ギャラリー・カフェ・工房室・研修室などを備えたセンター棟、5棟の宿泊用コテージなどから構成されており、現在、日本画、陶芸、木工、彫刻、イラストなど8名のアーティストが居住し、創作活動を行っている。
- 水源・森林環境を活かした交流振興の取組みは、比較的早くから行われてきている。林業との関係では、平成6年に開設した**木工センター「吉野杉工房」**や平成15年に設立された「**川上さぶり**」の施設見学を含めた森林伐採見学ツアー等が開催されている。
- 吉野杉工房の向かいの「**木匠館**」では、建築を学ぶ学生が木や山について学ぶ機会・場となる「**木匠塾**」を平成10年に開始している。特に、林業の担い手不足や高齢化などによる森林荒廃などは、本村の存立基盤に係る問題でもあることから、村の森林を守り、活かす人材を養成するための「**源流アカデミー**」を構想している。

【主な観光・交流資源】



出所:川上村HPより(画像)

《村の将来像》 都市にはない豊かな暮らしの実現

《村づくりにおける西部地区への期待役割》

- 村全体の人口減少に歯止めをかける
- 基幹産業(林業・木材業)の振興をけん引する
- 大滝ダムや土倉翁関連資産など村の象徴的な資源を有効活用する
- 地域経済の好循環を創出する要となり、経済的な潤いをもたらす

《西部地区の現況特性》

住まい・暮らし

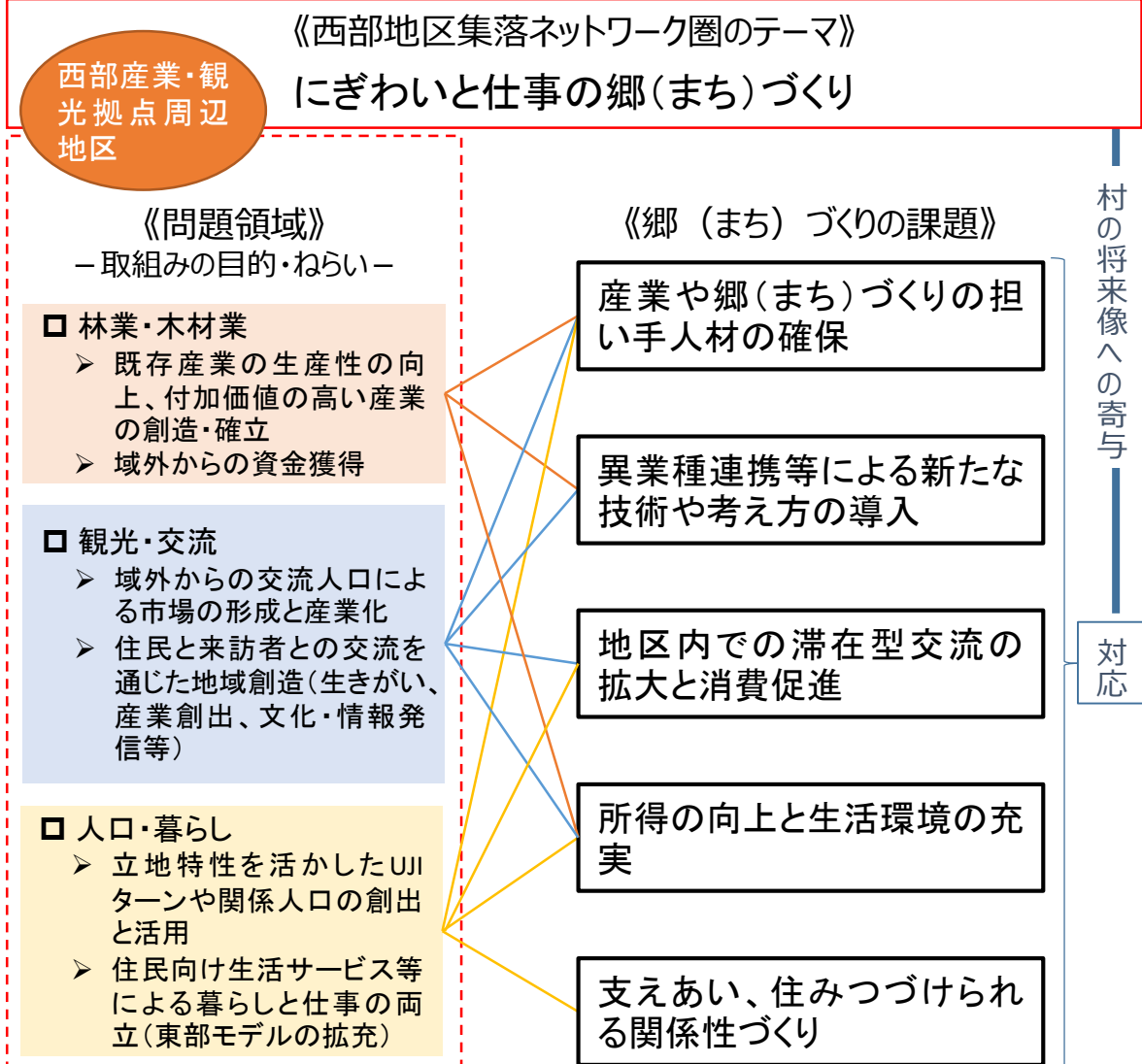
- 地区人口は減少しているが、住み続けたい意向をもった高齢者は多く、また新たな人材も転入してきやすい。
- 村唯一の小学校が立地する子育て層にも適した生活環境であるが、集落によっては年齢構成のバランスを欠く。
- 国道169号は自然災害や交通事故等によって不通となることがあり、その場合の迂回路にもなる県道262号線や対岸(吉野川右岸)の道路は、幅員や渡河など機能面に問題がある。

仕事

- 村の基幹産業である林業・木材業に関連する事業所などが集積している。
- 都市部に近い立地条件から、村外への通勤者も多いが、村外から通勤してくる従業員を抱える事業所もある。

観光・地域資源

- 豊富な観光要素を備えているものの、認知や魅力が十分発揮されているとは言い難い。村の玄関口にあたるポジションを十分活かしてきていない。
- 山がちな村にとって貴重な公有資産(国・県・村の不動産等)が存在しているが、低未利用な状況にある。



5. 郷(まち)づくりのコンセプト

<コンセプト>

100年先の「川上らしさ」を醸し出す郷(まち)づくり

～ゆったりとした暮らしとやりがいのある仕事を両立させ、山村の元気をつくる人材を育む～

【ポジティブ思考で生きていく】

- 川上村は、“消滅可能性”などといったネガティブな状況に負けない、前向きな意思と思考を持ちつづける。
- これまでの村づくりを支えてきている人たち、新しく入ってくる居住者、これから生まれる子どもたちとも一緒になって、時代と共に変化していく「川上らしさ」（都市にはない豊かな暮らし）をつくり上げていく。
- 西部地区は、村全体の“その先の将来”を見据えて価値を創造する要として、有望な担い手人材を惹きつける魅力を発揮・発信する郷（まち）となる。

【元気をもたらす「村外から稼ぐ力」をつくる】

- 全村に山積する課題をビジネスチャンスととらえ、社会的価値と経済的価値の創造を一緒に追求していくことのできる人材（企画力やノウハウ等を持った内なる人材や外部の関係人口）を呼び寄せると。
- 内部人材は、とりわけ所得・賃金面での格差による不利が生じないよう、収益のある（稼げる）事業の創発、起業のみならず副業・複業をしやすい環境条件の整備などによって、熱意ある質の高い人材の確保に努める。
- 村内の住民等と対象としたローカル市場だけでは「稼ぎ」に限界が生じることから、村外から来る人の需要（インバウンド市場＝観光）と、村外の消費者の需要（アウトバウンド市場）の、それぞれを視野に入れた「村外から稼ぐ力」を高め、その成果・効果を村内に還流させて、自立的・持続的な地域経済循環の仕組みを構築する。

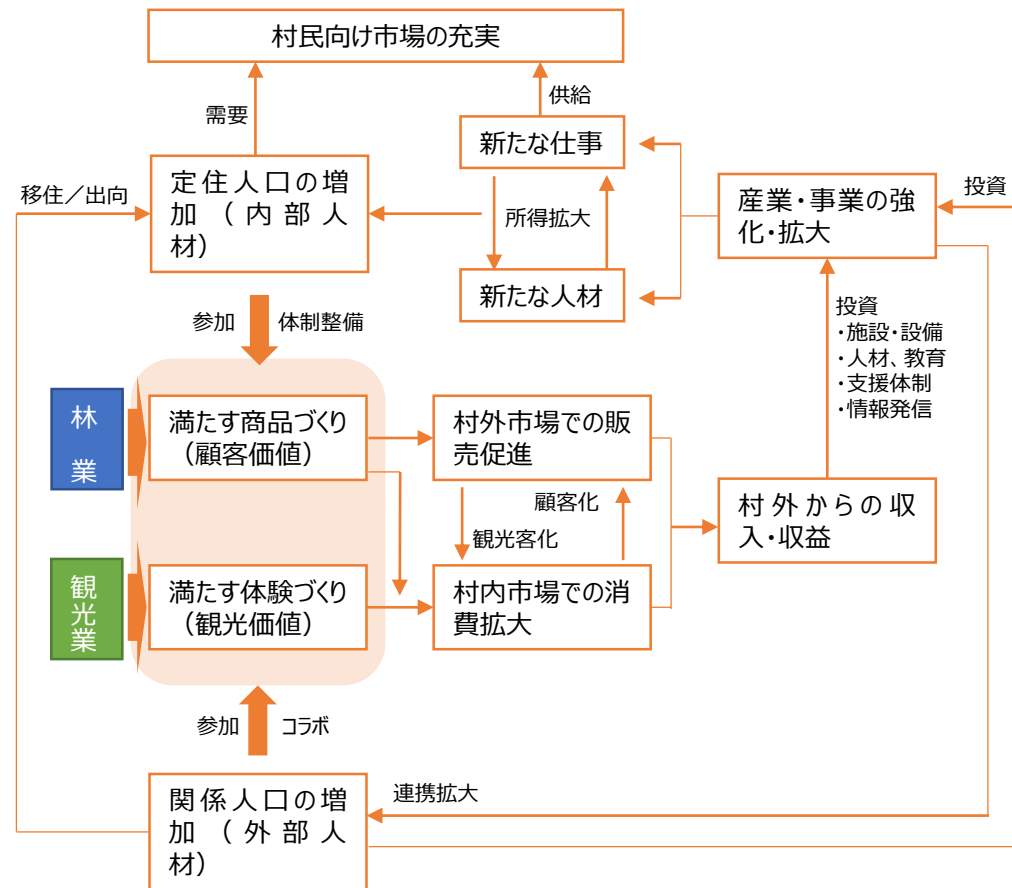
□ インバウンド市場対策（村外から来る需要を満たす）

- ✓ 川上村らしさを具現化できる資源と、観光客のニーズとを適切にマッチングさせ、魅力ある観光商品（観光価値）を創り出す。
- ✓ 合わせて、村内のできるだけ広い領域において、観光客が財布の紐を緩める（村にお金を落とす）場面を創っていく。

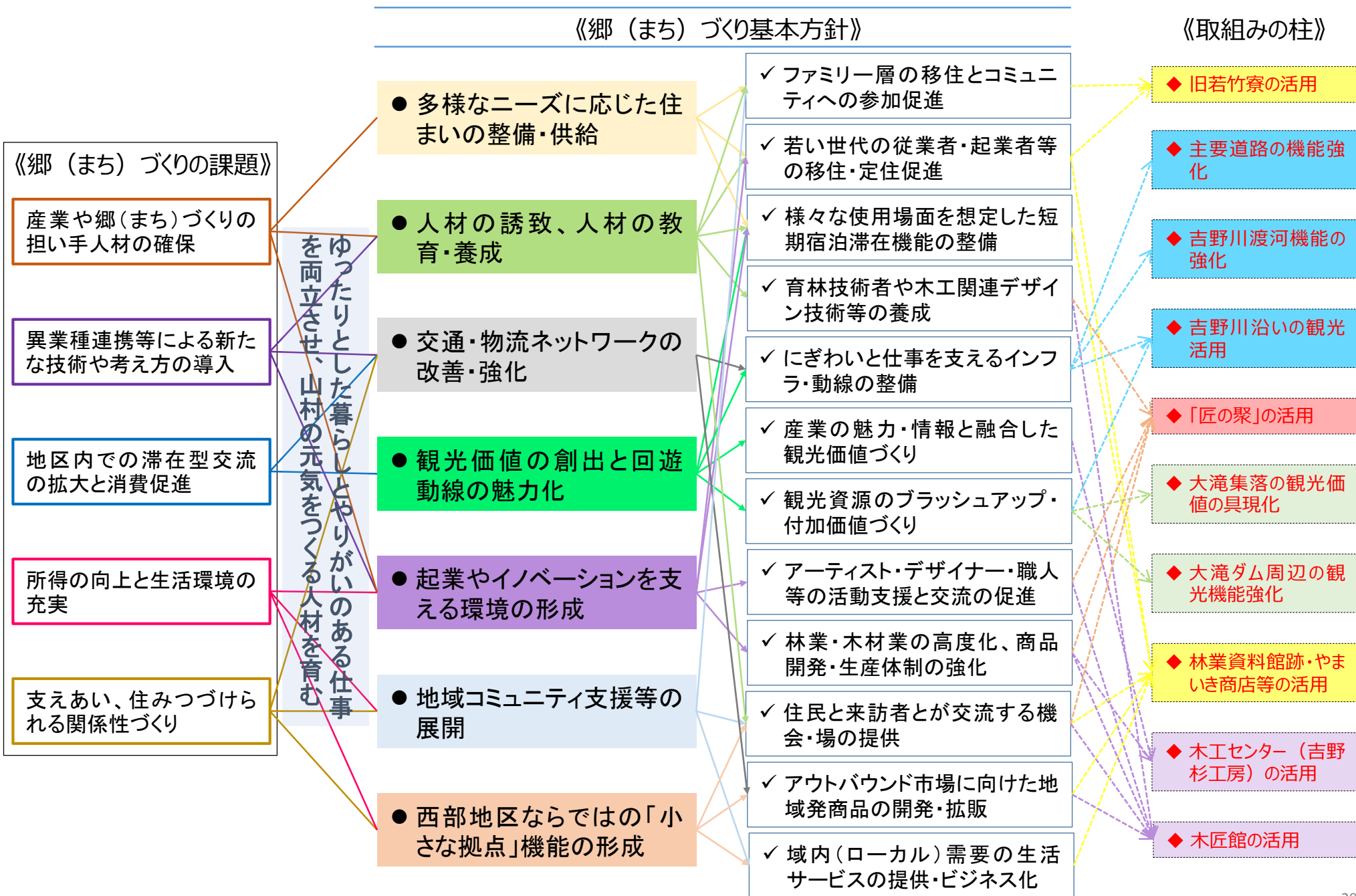
□ アウトバウンド市場対策（村外の市場ニーズを満たす）

- ✓ インバウンド市場向けと同様に、内部の経営資源を活かした魅力ある商品づくりを行いつつ、これまでに蓄積されている外部の経営資源（吉野ストア、ならコープ、協定締結企業等）を販路として積極的に活用する。
- ✓ 「村外での売上をつくる」取組みを進めるために、それが可能な仕組みの構築と共に、内部人材の能力を高め、川上村ならではの価値を創出する。

郷づくりの戦略ストーリー



6. 郷(まち)づくり基本方針



7. 基本となる取組み

◆ 旧若竹寮の活用

旧若竹寮の有効活用

- ◆ ファミリー層向け住宅の供給
 - ・ 西河の子育てや通勤・通学などに適した環境の価値を高め、担い手人材の定住を促進

◆ 林業資料館跡・やまいき商店等の活用

コミュニティ交流創造施設の整備（新たな「小さな拠点」）

- ◆ 村内物流拠点機能の形成
 - ・ 移動スーパーや宅配事業の拡大展開、住民によるオリジナル商品の開発と販促に向けた地域商社機能の形成、サービスステーションの移転整備
 - ・ 国道169号（トンネル南側付近）の交通安全性確保
- ◆ 交流拠点機能の形成
 - ・ 住民のアメニティを高め、来訪者と交流できる機能の併設（コミュニティカフェ、観光情報、物販等）
- ◆ 若者向け住宅の供給
 - ・ 事業所の従業員確保や村内での起業促進に対応
 - ・ 来訪者向けゲストハウス的な運用（バックパッカー、都市部からの週末起業、暮らし体験などにも対応）

◆ 木工センター（吉野杉工房）の活用

木工センター（吉野杉工房）の機能拡充

- ◆ 最終製品の開発・生産拠点機能の強化
 - ・ 家具・小物等ライフスタイル商品の増強
- ◆ 産業観光への取組み強化
 - ・ 消費者との接点づくり（ユーザーニーズの把握・反映）、新たな体験型観光商品の造成等

◆ 木匠館の活用

木匠館の再整備（産業創造複合施設）

- ◆ 「源流アカデミー」事業の推進
 - ・ 県のフォレスト・アカデミー構想との連携による、育林技術者等の養成、川上産材製品の開発・高付加価値化に資するデザイン強化等
- ◆ インキュベーション機能の複合化
 - ・ 木工関連のアーティスト・職人等の移住・創業・交流等の活動支援（アトリエ、共同利用設備、コワーキングスペース、交流ラウンジ、短期滞在設備など）
 - ・ 住民の副業・複業にもつながる独自商品の研究開発（地域商社による販路開拓）

◆ 主要道路の機能強化

主要道路の機能強化

- ◆ 県道262号線の機能整備
 - ・ 国道169号の機能を補完する生活・産業の道路
- ◆ 吉野川右岸道路の機能整備
 - ・ 事業所などの活動や相互連携を支える道路

◆ 吉野川渡河機能の強化

吉野川の渡河機能の強化

- ◆ 橋梁の整備
 - ・ 大型車両等の円滑・安全な通行を可能にし、産業創造ゾーンや観光拠点の形成・機能発揮を推進

◆ 吉野川沿いの観光活用

観光拠点間の魅力ある動線づくり

- ◆ 吉野川沿いの観光資源化
 - ・ 大滝集落（土倉翁関連資源）～大滝ダム（おおたき龍神湖）間における観光価値の創出・回遊促進
- ◆ 景観整備
 - ・ 植栽による修景整備等の実施

◆ 大滝集落の観光価値の具現化

大滝観光拠点の形成

- ◆ 滞在型観光の促進
 - ・ 土倉翁関連資源の活用・整備、吉野川水路跡の観光活用等による滞在促進
 - ・ 観光消費の場としての機能充実（飲食、土産販売、観光サービス提供等を通じた稼ぐ力づくり）

◆ 大滝ダム周辺の観光機能強化

大滝ダム周辺の観光拠点機能の強化

- ◆ おおたき龍神湖の観光活用（湖面利用の促進）と一体的プロモーション
- ◆ ダムサイト周辺のアクセス性・滞在性の改善・強化
 - ・ 国道169号からのアプローチ、垂直方向の移動性等
- ◆ 植栽等による景観整備

◆ 「匠の聚」の活用

「匠の聚」の拡充・機能連携

- ◆ アトリエの増設
 - ・ 村の創造力につながるアーティスト等の集積促進
- ◆ アーティスト等とのコラボレーション促進
 - ・ 各種分野とのシナジー効果（高付加価値化）の発揮

8. 基本構想図

